様式1

令和２年度　学校評価表

学校教育目標	確かな学力と豊かな心をもち，たくましく生きる子供の育成　　～　かしこく・やさしく・たくましく　～

a　ミッション	個に応じた授業スタイルの確立による学力向上の実現	a　ビジョン	学んでよかった・通わせてよかったと思っていただける学校に

尾道市立西藤小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力	かしこく	基礎・基本の確実な定着	個に応じた指導の充実 ・間違い直しの徹底 ・実態に応じた指導の工夫	単元末テスト（国・算）の平均点が80点を超える児童の割合	85	79.0	81.0	95.2	B	・平均点が８０点を超えた児童の割合は，国語科79%，算数科83%であった。（平均81%） ・算数科では，１学期と比べ，６学年中５学年で正答した児童の割合が伸びており，一定の成果がみられる。 ・学年によって目標値を超えた割合に差がある。 国語科では，説明文の読み取り（３年生），算数科では活用題や思考・判断・表現に，特に課題がある。 ・平均８０%以下の児童が固定化されている学級もある。	3			・複数教員の指導により一定の成果がみられるので，継続して取り組んでいただきたい。 ・課題のある児童に対して，朝の時間等を最大限に活用し，個別指導で基礎基本を身に付けさせてください。 ・全児童の学力向上に向けて「チーム西藤」で全体及び個の取組を効果的にきめ細かく取り組んでいる。 ・読書が全ての基本であると思うので，本を手に取る機会を増やす活動を進めてほしい。	「組織的な個へのアプローチ」 ・実態把握から指導までを複数の教員で行い，その子の特性にあった指導は何か，どのようなことが有効であるかを確認する。 「間違い直しの徹底」 ・一度つまずいた内容や問題に対して，児童は繰り返して間違う傾向があることから，それらを授業やテストから把握し，小プリントや再テストを通して，つまずきをへらしていく。 「協働学習と個別学習の充実」 ・個別学習について，授業の中でどのように設定し，どのような支援を行えば有効であったかを職員で共有することが，質の向上につながると考える。 「評価の指標や方法の修正」 知識・技能の正答率と思考力・判断力・表現力の正答率を区別して集計することで，課題のある児童は何%の正答率で，どのくらいを目標にして取り組んでいく。
豊かな心	やさしく	お互いの良さを認め合い，相手や時と場に応じた生活ができる児童の育成	声が掛け合えるつながり作り ・挨拶運動 ・ありがとう箱	進んで明るい「挨拶」ができる児童の割合	90	84.0	90.0	100.0	A	・進んで明るい挨拶ができる児童の割合は90%となり，目標値を達成した。 ・臨機応変に時と場に合った挨拶をすることに課題が残る。 ・『ありがとう箱』の取組により，他学年とも声が掛け合えるつながりを作ることができ，異学年を越えてあいさつの輪が広がってきた。	3			・高学年の児童は，進んで挨拶ができ，素晴らしいことである。低学年の進んで挨拶は，もう少し努力が必要で，地域でも根気よく声掛けをしていきたい。 ・工夫して粘り強く取組をしてきたその成果を感じる。 ・下校中に明るく元気に挨拶する児童に接すると，一日楽しく学校生活が過ごせたのだとホッとする。継続して取り組んでほしい。 ・高西ブロック共通の取組も良い。 ・今後も挨拶を大切に取り組んでほしい。	「多面的な評価」 ・児童による自己評価だけでなく，教師評価，友達同士・異学年による評価等の他者評価も取り入れ，多面的に評価していく。 「率先垂範」 ・相手のことも考え，臨機応変に時と場に合った挨拶ができるよう，教師が児童の手本になって率先して挨拶をしていく。 「『ありがとう箱』の取組の継続」 ・今後も継続することで，あいさつの輪を広げていく。 ・もらったメッセージカードをどのように本人や学級に返す（認め合う）ことがよいのか，学校全体で統一し，自己肯定感が高まる取組をさらに進める。
健やかな体の育成	たくましく	健康でたくましい体の育成	継続的な取組による体力の向上 ・体力アップカードの活用 ・運動あそびの紹介	体力アップカードの合計点が，学年の目標値を達成する児童の割合	80	53.1	94.0	117.0	A	・学年の目標値を達成した児童の割合は94%となり，前回と比較して大幅に増えた。 ・動きの項目ごとの達成率は，「リズム」86%「バランス」86%「同時に動かす」69%となり，「同時に動かす」動きに課題が見られた。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため体育朝会が制限がされ，運動遊びの紹介があまりできなかった。	3			・新型コロナウイルス感染症対策の影響で，いろいろな制限があり大変だと思うが，今後とも工夫して頑張っていただきたい。地域の公園では，児童が縄跳びや一輪車等の外遊びを楽しんでいる様子が見られる。 ・コロナ禍の中で大変だったと思うが，大幅に目標値を達成して，素晴らしいと思う。 ・異学年で教え合うという取組も，色々な場面で活かされていると感じる。 ・スポーツ大会においても一生懸命さが伝わり，６年生をリーダーとして全児童が輝いて見え，感動した。 ・コロナ禍で外出の機会が減っているので，学校でしっかりと体を動かすことが大切だと思う。	「個の頑張りを評価」 ・学年目標を達成した児童を表彰する。 ・学年目標を達成しているかどうかだけでなく、個人の月別の振り返りなどから、個人の頑張った点を認め評価する。 「場の設定の工夫」 ・ペットボトルを一人一本用意し，日常的に種目に取り組めるようにする。 ・委員会児童を中心として，児童同士が動きを教え合う時間を確保する。 「内容の精選」 ・学年ごとの結果をもとにしながら、種目や回数などを精査する。 ・難易度の異なるカードを用意し児童の実態に応じて選択できるようにする。 「運動経験を増やす」 ・体育朝会や掲示物などを活用して定期的にいろいろな遊びを紹介し，多様な運動を経験させる。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。